

1994年カンヌ国際映画祭最優秀監督賞・1994年ヨーロッパ映画賞最優秀作品賞

ナンニ・モレッティ監督作品

# 親愛なる日記

CARO  
DIARIO  
un film di  
NANNI MORETTI



“親愛なる日記よ、この世には  
ぼくの好きなことがある！”

夏のローマから、風の島々にさすらい、  
誤診がもとで医者めぐり……  
愛をこめてイタリアを見つめる  
モレッティの最高傑作！

監督・脚本・製作・主演＝ナンニ・モレッティ 撮影＝ジュゼッペ・ランチ / 音楽＝ニコラ・ピオヴァーニ / 編集＝ミロコ・グローネ / 衣装＝マリア・リタ・リッパ / 美術＝マルタ・マフッチ / サウンド＝フランコ・ポリニ / 製作＝アンジェロ・バ  
ルビガ / ナンニ・モレッティ、キアラ・リボン ● ナンニ・モレッティ、ジェンナー・ピリス、アレクサンダー・ロウツェル、カルロ・マッザラ、ティレナート、カレンティエリ ● 1993年伊仏合  
作、イタリア映画 / 製作＝SACHER FILM (ROMA) / 合作＝BANFILM, LA SEPT CINEMA, STUDIO CANAL PLUS (PARIS) / 製作局＝RAI UNO, CANAL PLUS ©1993 SACHER FILM ROMA. ALL RIGHTS RESERVED

フランス映画社配給  
パウ・シリーズ作品



# 親愛なる日記



ナンニ・モレッティ監督作品  
 1994年カンヌ国際映画祭最優秀監督賞  
 1994年ヨーロッパ映画賞最優秀作品賞  
 1994年(カイエ・デュ・シネマ)誌年間ベストワン

CARO  
 DIARIO  
 un film di  
 NANNI MORETTI

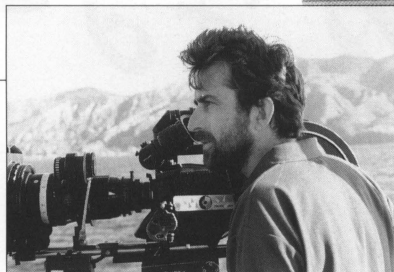
leso diario,  
 c'è una cosa de mi f

## ●カンヌを沸かせ、笑いがはじける モレッティの愛すべきイタリア日記

1994年カンヌ映画祭で最優秀監督賞を受賞したのは、爽やかな笑いに感動を包みこんだナンニ・モレッティ監督の「親愛なる日記」。映画はモレッティ自身の「親愛なる日記よ、この世には僕の大好きなことがある」という語りかけで幕を開ける。そしてベスパ(スクーター)に乗った彼が、夏のローマを軽やかに走り、旅が始まる。

<第1章・ベスパに乗って>は、モレッティの好きな場所、行動、そして心境を綴った、こだわりのローマ案内。<第2章・島めぐり>は、静かな仕事場所を求めて、旧友と共にシチリア周辺の《風の諸島》をめぐる珍道中。そして<第3章・医者めぐり>はかゆみを覚えたモレッティが、誤診がもてど実に様々な医者をめぐり、果ては手遅れのガンと宣告される、という実体験に基づく悲喜劇。

美形のモレッティが、うっとおしいヒゲ面で平然と描くこの映画の基調は、辛口のコメディ。いつかは誰かが笑ってくれるだろうと割り切ったような楽天性が感じられるのは、死を宣告されて作ったからか、個人的日記によせて現在のイタリアを浮き彫りにする野心からだっただか。あるいはイタリアの青春を描き尽くして、今や栄光の花の40代に入ったからなのだろうか。



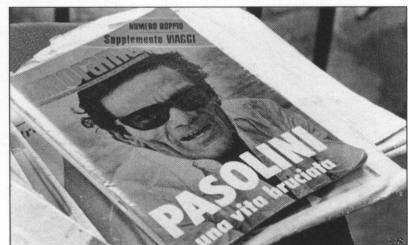
## ●イタリア映画界の精鋭が結集 モレッティの最高傑作が誕生!

自作自演のモレッティの主人公の役名は「青春のくずや〜おはらい」監督ミケーレの黄金の夢「僕のピアンカ」「赤いシュート」まで、「ジュリオの当惑」以外は常に「ミケーレ」だった。しかし「親愛なる日記」では初めて、分身ミケーレと別れて、映画監督ナンニ・モレッティとして登場する。そのモレッティの共演は、もちろん日記、ベスパ、ローマの町並み、大好きな白い橋、そしてパゾリーニ監督の殺害現場のオステリア海岸。人物で言えば、第1章でモレッティの憧れの人として登場するジェニファー・ビールス本人。夫アレクサンダー・ロックウェルと共にモレッティとは旧知の仲。第2章で、テレビを30年も見ていない知識人役のレナート・カルペンティエリは、舞台演出家で「フィオーレ 花月の伝説」などに出演もしている。第3章の医者たちは、モレッティ映画の常連。

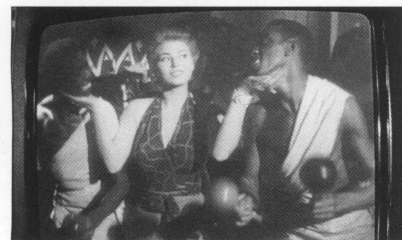
撮影は、「ノスタルジア」やタヴィアーニ作品の名手ジュゼッペ・ランチ。《風の諸島》の深い海の青の色や、ストロンボリの雄大な火山の景色など、見事な撮影で思う存分堪能させてくれる。音楽は巨匠ニコラ・ピオヴァーニの、素朴な、抑制のきいたオリジナル曲と、ワールド・ミュージックやキース・ジャレットの名演が見事な調和を奏でる。そして製作は、モレッティの盟友アンジェロ・バルバガッロ。

## ●各国の絶賛、大ヒットを経て ついに日本上陸!

◎こんなに愛しいと感じる映画は、滅多にない……………英ザ・ガーディアン紙  
 ◎この日記はやがて深みを帯びて、感動に変わる……………英ジ・インディペンデント紙  
 ◎おかしくて心をとらえる、嬉しいオフビート映画……………米ニューヨーク・タイムズ紙  
 ◎この映画が呼び起こす嬉しさ、それに匹敵するものは今どこの映画にもない……………  
 ………………仏カイエ・デュ・シネマ誌  
 ◎透きとおっていて、軽やかで、まるで水の入ったコップのよう。モレッティはスタイルもストーリーも自由に、軽やかに到達した……………伊ピエラ・デタッシス氏  
 各国の絶賛を浴びて、本国イタリアでは記録的なヒットでモレッティをヒット・メーカーのベスト5にランクし、いま欧米で驚異的なロングランを続けている。



●監督・脚本・製作・主演＝ナンニ・モレッティ、撮影＝ジュゼッペ・ランチ、音楽＝ニコラ・ピオヴァーニ、編集＝ミルコ・ガローネ、衣装＝マリア・リタ・バルベラ、美術＝マルタ・マフチ、サウンド＝フランコ・ボルニ、助監督＝リカルド・ミラーニ、プロデューサー＝アンジェロ・バルバガッロ、ナンニ・モレッティ、ネラ・バンフィ●ナンニ・モレッティ、ジェニファー・ビールス、アレクサンダー・ロックウェル、カルロ・マツァクラティ、レナート・カルペンティエリ●1993年伊仏合作イタリア映画／製作＝SACHER FILM (ROMA)／合作＝BANFILM, LA SEPT CINEMA, STUDIO CANAL PLUS (PARIS)／製作協力＝RAI UNO, CANAL PLUS／全6巻、1時間41分(2,765M)、カラー、1×1.66、ドルビーステレオ／日本語字幕＝吉岡芳子／宣伝デザイン＝小笠原正勝／◎1993 SACHER FILM ROMA, ALL RIGHTS RESERVED



# 5/25(土)→31(金) 京都ロードショー!

2本立  
 監督・脚本：ウイム・ヴェンダース  
**リスボン物語**  
 監督・脚本：ナンニ・モレッティ  
**親愛なる日記**

親愛なる日記	—	12:55	4:50
リスボン物語	11:00	2:50	※ 6:45

※25④・26⑥・27⑧は、6:45の「リスボン物語」の上映はありません。

■特別鑑賞券発売中1,400円■  
 (当日/一般1,700円 学生1,500円の処)

お求めは劇場窓口、チケットぴあ、チケットセゾン、四葉河原町飯急6FPG、河原町ビブレ、大丸京都店1FPG、京都朝日シネマ、梅田ESTI、梅田東映PG他にて。

**京都みなみ会館**  
 九条大宮・近鉄東寺駅西へ150m075(661)3993  
 ●企画・お問合せ<RCS>075(315)7281●